

国際・交流委員会 基本方針

国際・交流室 国際・交流委員会
委員長 古賀 智博

1 昨今、労働人口の減少や教育水準の向上を背景とした、政府方針による外国人の受け入れ
2 促進などにより、地域に住まわれる在留外国人の増加が予測されている中、多文化共生を目指した地域づくりに取り組む機運が高まっています。グローバル社会における多様性を受け入れ、地域に住み暮らす人びとにとって、明るい豊かな社会となるよう我々が地域社会と密接な交流を深め知識を醸成していく必要があります。

6 まずは、諸先輩が 1985 年から継続してきた姉妹 J C である社團法人台南市新營國
7 際青年商會との交流が本年度で 38 年目を迎え、堅固なる友情をさらに深めるために、相互
8 交流に関わる課題解決に取り組み、より一層楽しみを持って参加できる相互交流にします。
9 そして、文化、歴史、価値観の違いを、広く深く理解し合える国際交流するために、個々
10 においても友情が芽生える訪問事業を企画し、佐賀青年会議所メンバーに積極的な参画を
11 促すとともに、国際意識を高める機会を創出します。さらに、多様性を受け入れるユニバーサルな地域社会を目指していくために、身近に住み暮らす在留外国人の方とコミュニケーションを交わす例会などを行い、多文化共生への理解を深め活気溢れる地域づくりにつなげます。また、国内開催である A S P A C 堆高石大会での近隣諸国との交流をより多くのメンバーで共有するために、日本青年会議所等から発信される情報を集約した周知活動を行い、身近で体感できる国際経験を積み、友情の輪を広げ青年会議所活動の一助とします。

17 我々佐賀青年会議所はこれまで以上に国際社会・地域社会への貢献と交流を通じた活動を行
18 い、一人ひとりの違いを柔軟に受け入れ、地域の方々と共に皆が手を取り合い、多様性を活かした佐賀を創造していき、「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、「銀鱗躍動」のように地域で勢いよく輝き続ける団体を目指します。

21

22

23 [事業計画]

- 24 1. 新營 J C 訪問交流の企画・運営（11月）
- 25 2. シニア総会の参加者支援（1月）
- 26 3. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 27 4. 例会の企画・運営（3月・11月）
- 28 5. A S P A C 参加者への支援（6月）
- 29 6. 河川清掃（10月）
- 30 7. J C I 世界会議参加者への支援（11月）
- 31 8. 会員拡大 拡大目標 委員会 8 名（全体 40 名）